

中内靖（せい）さん（窪川小学校5年）
片岡源造（げんぞう）さん（米農家）

WAZA!!! 技

おいしいお米でトロフィーを

実りの秋。高南台地に広がる黄金色の田んぼを、コンバインが刈り進む。あぜ道でその様子を見つめるのは、窪川小学校5年の中内靖さん。幼い時から祖父の片岡源造さんに付いて回り、米作りを学んできた。

小さかった頃の特等席は、トラクターに乗るおじいちゃんの膝の上。「でっかい機械」が大好きで、田起こしも土寄せも、肥料をまくのも、見ているだけで楽しい。将来は「世界一のお米を作りたい。トロフィーが欲しい」と笑顔で話す。

3歳ぐらいの頃、誰に言われたわけでもなく、家庭菜園の片隅を耕して水をため、小さな田んぼを作った。源造さんに教わりながら苗を植え、初めて自分で作った米は「めちゃくちゃ甘くておいしかった」。

以来、米作りは今年で「5、6回目」。同じ品種でも年によって味にばらつきが出る。自分の手で育ててみて、難しさも分かってきた。「じいちゃんの田んぼは軟らかさが全然違う。もう一瞬でズボッて足が入る」

源造さんは宮内商店（仁井田）の提携農家として、計約12ヘクタールで仁井田米を生産する。有機質の肥料を使い、水の管理も徹底。高品質な特別栽培米を作り続けている。

2015年には、「第12回 お米日本一コンテストinしずおか」で1位に当たる実行委員会会長賞（特別最高金賞）を受賞した。「最高にうれしかったね、やっぱり日本一は」。ちょうどその年に靖さんが生まれた。「もう一回取りたいと思いゆうけんど、なかなか難しい。どうなるかは分からん」

寡黙な職人肌の源造さんだが、孫の話になると笑みがのぞく。「そら楽しみじゃね。これから変わるかもしれんけど、（米農家を）やるようになってくれたら一番いいわね」

一方の靖さん。祖父を尊敬しつつも、負けるつもりはない。「じいちゃんは毎年おいしいお米を作るのがすごい。けどいつか、自分の米の方がおいしくなる日が来ると思う」。稲刈りを終えた自分の田んぼで、耕運機を発進させた。







